

じょう ど しん しゅう ほん ぞん
浄土真宗のご本尊は
あ み だ に よ ら い
阿弥陀如来です

しんらんしゅうにん
親鸞聖人は、自らを自身の修行や努力では仏になることなどできない存在であることを見抜かれ、阿弥陀さま（阿弥陀如来）の「本願」（生きとし生けるものすべてをすくいたもうお慈悲の願い）に出会うことこそ、私たちが本当にすくわれていく道だと気づかれました。

以来、親鸞聖人の教えを仰ぐ私たち浄土真宗の門信徒は、阿弥陀さまのはたらきをおすがたであらわした「絵像」や「南無阿弥陀仏」の六字のお名前であらわした「名号」をご本尊として、手を合わせ、感謝と敬いのところをはぐくんでいます。

亡くなった人がいないから お仏壇はいらない？

お仏壇は、日々を生きる私たちが、阿弥陀さまの「本願」に出会い、そのおはたらきに気づき、手を合わせる場です。

「亡くなった人がいないから、お仏壇はまだいらない」と思っている人がいますが、あくまでも、仏法に出会う場所ですから、どの家庭にもお仏壇を置くことが大切なのです。

※お仏壇には、故人の法名や俗名等を記入した過去帳を置きましょう。

住まいや生活状況に合わせて

新たに家庭を持った方や、進学や仕事のため親元を離れ一人住まいをする方も、阿弥陀さまのおはたらきに感謝し、いのちのあり方のかえりみる生活を送りましょう。

アパートやマンションなど、大きなお仏壇を置くスペースのない住まいに適しているのが「いちよう」「きく」というサイズのお仏壇です。

また、長期出張や留学、入院など家を離れる時に、いつでもどこでも手を合わせることができるのが携帯用の「懐中名号」です。

ご本尊は、本山からお迎えしましょう。

詳しくは、
ほんがん じ さん ばい ぎょう か ぶ
本願寺参拝教化部 (075-371-5181 代)
にお問い合わせください。

ご本尊についてのご相談は…

編集：重点プロジェクト推進室 発行：本願寺出版社

2015.03.200,000

お仏壇を伝える
お仏壇を伝える



浄土真宗本願寺派

©2008 HONGWANJI

お仏壇を伝える ところを伝える

お母ちゃん、来月東京に引っ越すからね。

そうか。一人で淋しくなるけど、応援してるから、がんばってな。

それでね、一つお願いがあるんだけど、お仏壇のへりにある父ちゃんの写真を持って行っていいかな。ずっと見てきたから、持って行きたいんだけど。

うん、ええよ。ただね、写真だけじゃなくて、お仏壇も持って行ってほしいのよ。

え、お仏壇を！？このお仏壇を持って行くん？

このお仏壇は、結婚したときにお父ちゃんが買った大切なものだから、持って行っちゃだめよ(笑)。そうそう、買った時にはね、こんな大きな物、大変だと思ってたなあ。だって、お父ちゃん転勤ばかりだったでしょ。

うん、そうだったね。



そのたびに、仏具を一つひとつ、大事に包んで運ばなくちゃいけないし。

ただね、お父ちゃんは、どんなに疲れて帰ってきても、必ずお仏壇の前に座って、お念仏してはったやろ。そのお父ちゃんの姿から教えられたんや、大切なことを。

今は、お母ちゃん、毎月、お寺参りしてるもん。

お父ちゃんが、いつも私を見守ってくださっている仏さまとのご縁をつないでくれたと思うてるんや。だから、その心を、あなたにもつないでほしいというのが、お母ちゃんのお願いや。

うん、わかった。小さな部屋だから、小さなお仏壇にしてな(笑)。

